

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち
施策分野	1	教育環境の整備

課（係）名	教育総務課		
作成年度	平成25年度	（更新日）	平成25年4月30日

目的	管理指標	実績 (H24年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H22年度末)	(H23年度末)	備考	
基本計画	児童・生徒が学習しやすいまちを目指します。	学校施設の耐震化率	97.0%	100%	27年度	77.8%	82.4%	
		教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数	11.5人	3.6人	27年度	12.0人	11.8人	
目的を達成するための具体的な方策	01 総合的教育行政の推進	小中学校施設管理のあり方検討会の開催	1回/年 (延べ6回)	延べ回数15回	27年度	3回/年	2回/年 (延べ5回)	
	02 学校施設の耐震化	学校施設の耐震化率	97.0%	100%	27年度	77.8%	82.4%	
	03 学校給食のあり方の検討	小学校における共同調理場の導入校数	0校/10校	5校/10校	27年度	0校/10校	0校/10校	
	04 情報教育環境整備の充実	教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数	11.5人	3.6人	27年度	12.0人	11.8人	

市民との協働方策		《平成24年度末時点の活動状況》		《平成25年度の改善のポイントや重点方向等》	
	01 保護者と地域の方たちとの協働による教育環境の整備	全小中学校で行ったPTA奉仕作業に伊東市公共施設の里親制度（アダプトシステム）を取り入れ、作業の円滑化を図った。		PTA奉仕作業だけではなく、民間からのボランティア等も取り入れていく。	

《実績評価》	
(1) 基本計画指標の達成度（総務係）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・南中学校校舎は平成23・24年度の2か年で耐震補強工事が完了し、耐震性の無い技術科棟を使用停止とした。富戸・池小学校屋内運動場は平成24年度耐震補強工事が完了した。</li> <li>・教育用コンピュータについては小・中学校15校全てで5年間の長期継続契約で実施しており、更新時期に合わせて教育環境の向上に資する機器を導入していく。</li> </ul>	
(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度	
01総合的教育行政の推進	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、学校関係者等で構成する「小中学校施設管理のあり方検討会」を平成22年度から引き続き開催した。会議では、25年度に予定する西小学校屋内運動場の耐震化実施に向けた意見交換を行った。</li> </ul>	
03学校給食のあり方の検討	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市学校給食における当面解決すべき諸問題への対策として「伊東市学校給食運営計画」を平成24年11月に策定。平成26年度までの期間を第1ステージとして位置付け、小学校給食における調理場の集約と栄養士業務の集約を進めた上で、第2ステージの中学校給食の実施に向けた可能性を探る方針を打ち出した。</li> </ul>	

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H24年度末)	目標	期限	《平成25年度の改善のポイントや重点方向等》	
2桁	4桁							
01		総合的教育行政の推進					27年度	
	0101	学校施設管理に関する定期的意見交換の実施	検討会開催回数	1回/年 (延べ6回)	延べ回数15回	27年度		
	0102	学校施設の整備	学校施設工事要望件数	96件	0件	27年度		
02		学校施設の耐震化					27年度	02学校施設の耐震化 ・耐震化未実施の西小学校屋内運動場については、改築のための基本実施設計を実施し、早期の工事着手を目指す。
	0201	要耐震化施設の耐震化（小学校）	耐震化未実施棟数	1棟	0棟	27年度		
	0202	要耐震化施設の耐震化（中学校）	耐震化未実施棟数	0棟	0棟	27年度		
03		学校給食のあり方の検討					27年度	03学校給食のあり方の検討 ・0301 下田高校に設置した県の専門機器を活用しての測定を引き続き実施する。 ・0302 6月に実施する「ふるさと給食週間」を活用し、引き続き地産地消を推進する。 ・0303 学校給食運営計画に基づき、既存の施設を最大限に活用する中で調理場の集約を進めるとともに、中学校給食実施も見据え、栄養士業務の集約化も進めていく。 ・0304 上記0303の実施に合わせ、児童・生徒数の推移を考慮しながら小学校の調理場を共同調理場として導入可能な中学校と、そうでない中学校との選定を行う。
	0301	安全な学校給食の提供	専門機器による給食食材の放射性物質検査の実施数	20回78食材 (いずれも検出無し)	継続実施	27年度		
	0302	魅力ある学校給食の提供	給食食材における県内産品の活用割合	48.7%	50%	27年度		
	0303	安定的な調理体制の構築	小学校における共同調理場の導入校数	0校/10校	5校/10校	26年度		
	0304	中学校給食の実施に向けた検討	平成27年度からの新たな運営計画の策定	検討の方向性の決定（現行計画への位置付け）	策定	26年度		
04		情報教育環境整備の充実					27年度	04情報教育環境整備の充実 ・小学校では、現在2人1台の割合で整備されているパソコン教室の教育用パソコンを1人1台とするため、小学校5校（東・西・大池・八幡野・南小）については平成24年9月から1年間の再リースを実施し、残りの小学校5校（川奈・宇佐美・富戸・池・旭小）のリース満了期間である平成25年9月に目標に近づけるよう整備内容の見直し等の検討を進めていく。（中学校のパソコン教室は1人1台整備済み） ・校内LAN整備については、早期の完全実施を目指し、国の交付金（補助）制度活用に向け、国県へ要望を続けていく。
	0401	教育用パソコン整備	パソコン台数	440台	1,420台	27年度		
	0402	校内LAN整備	整備済校数	5校	15校	27年度		

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち
施策分野	2	教育の充実（幼稚園）

課（係）名	幼児教育課（幼稚園）	
作成年度	平成25年度（更新日）	平成25年4月3日

目的	管理指標	実績 (H24年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H22年度末)	(H22年度末)	備考	
基本計画	どの子ども夢を持ち、のびのびと活動する園のあるまちを目指します。	幼稚園が楽しいと思う子どもの割合	97.0%	99.0%	27年度	98.0%	98.2%	H21年度から外部を含めた学校評価を実施
目的を達成するための具体的な方策	01 幼稚園教育の充実	教育課程の編成等小学校と連携している園数	13園	14園	27年度	13園	13園	県で実施している「幼児教育に係る実態調査」を準用し、アンケートを実施
	02 保護者と共に子どもの育ちを支える	子育て支援事業を実施している幼稚園の割合	100.0%	100.0%	27年度	50.0%	57.1%	
	03 集団保育を実施するための環境整備	集団保育を行い難い小規模園数	4園	3園	27年度	4園	4園	伊東・湯川・富戸・池
	04 子育てニーズに応じた幼保連携の推進	教諭・保育士資格の併有率	69.2%	80.0%	27年度	—	68.2%	

市民との協働方策	《平成24年度末時点の活動状況》		《平成25年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 地域行事、園行事を通しての地域住民との相互交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の祭典等を通じての交流実施園：6園</li> <li>・老人クラブ、老人施設等異世代交流実施園：7園</li> </ul>	地域交流を推進できるような園行事を積極的に教育課程の中に組み込むよう検討する。 中高生との異世代交流を推進する。

《実績評価》

(1) 基本計画指標の達成度

- ・平成24年12月13日から12月24日までに実施した平成24年度伊東市立幼稚園評価アンケートの結果、「お子さんは幼稚園に行くのを楽しみにしていますか」の問いに対し、「はい」と答えた保護者が全園平均で97.0%と、平成23年度末よりも1.2ポイント減少した。

(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度

- 【01幼稚園教育の充実】連携園数に変化はないが、平成24年度において保育園、幼稚園、小学校の教諭により「伊東市保幼小連携プログラム」をもとにし、更なる連携の強化を図った。
- 【02保護者と共に子どもの育ちを支える】子育て支援事業実施は、100%に達した。これは、外部人材を講師とした子育て講演会の実施を積極的に行った結果である。
- 【03集団保育を実施するための環境整備】指標園数に変化はないが、伊東幼稚園と湯川分園と合同保育や、富戸幼稚園と池幼稚園の相互訪問を積極的に行っている。
- 【04子育てニーズに応じた幼保連携の推進】教諭・保育士資格併有率は、68.2%と増加し、今後も幼稚園教諭の採用は教諭免許と保育士資格の両方を条件としていくため併有率は増加すると見込まれる。

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H24年度末)	目標	期限	《平成25年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01		幼稚園教育の充実					01 幼稚園教育の充実 【重点方向】 ・平成23年度に策定した「伊東市保幼小連携プログラム」を効果的に活用し、保幼小の交流、連携を実施する。 【改善のポイント】 ・平成24年度は新規採用教諭が4人いる。配属園では日常の保育実践のほか、週10時間以上、年間300時間以上の園内研修を実施する。また、年間25日以上の園外研修を行い、実践的指導力と使命感を養う。
	0101	地域の特色を生かした保育計画の策定	保育計画策定園数	全園	全園	25年度	
	0102	保育園・小学校との交流活動の推進	幼・保・小の交流実施園	85.7%	100%	27年度	
	0103	幼児教育向上のための研修会への参加等	研修会参加者数	教諭全員	教諭全員	25年度	
	0104	幼稚園の相互訪問の実施	幼稚園の相互訪問実施回数	14回	14回	25年度	
02		保護者と共に子どもの育ちを支える					02 保護者と共に子どもの育ちを支える 【改善のポイント】 ・「新しい公共」の視点に立ち、保護者、ボランティア、地域と協働できる事業、活動を推進する。
	0201	幼稚園を拠点とする子育て支援の推進	子育て支援事業の実施園	14園	14園	27年度	
	0202	保護者の保育参加の促進	保護者の保育参加日数	83日	98日	27年度	
	0203	PTAボランティア活動の促進	活動園数	5園	14園	27年度	
	0204	要耐震化施設の耐震化	未実施施設数	2園	0園	27年度	
03		集団保育を実施するための環境整備					03 集団保育を実施するための環境整備 【重点方向】 ・平成20年度に答申を受けた「伊東市立幼稚園のあり方について～市立幼稚園適正配置計画」に基づき、具体的なアクションに向けての検討を重点的に実施する。
	0301	3歳児保育の実施園数	3歳児保育の充実	14園	14園	25年度	
	0302	本園・分園の交流の推進	本園・分園合同保育日数	14回	6回	27年度	
	0303	小規模園のあり方の検討	検討会の開催回数	0回	3回	27年度	
04		子育てニーズに応じた幼保連携の推進					04 子育てニーズに応じた幼保連携の推進 【改善のポイント】 ・幼稚園、保育園間での職員相互交流を研修の中に位置づけ、研修に係る内規を定め、研修を実施する。幼稚園教諭3人が2回ずつ保育園での研修を行う。
	0401	幼保職員交流の推進	幼保連携に関する研修会の開催数	6回	2回	27年度	
	0402	幼稚園での預かり保育の実施	実施園数	0園	3園	27年度	

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち
施策分野	3	教育の充実（小・中学校）

課（係）名	◎教育指導課 ○教育総務課
作成年度	平成25年度（更新日） 平成26年1月21日

目的	管理指標	実績 (H24年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H22年度末)	(H23年度末)	備考	
基本計画	将来に夢を持ち、どの子ども生き生きと活動する学校のあるまちを目指します。	学校が楽しいと思う子どもの割合	<小学校> 90.0%	<小学校> 95%	27年度	88.8%	<小学校> 91.6%	
			<中学校> 82.1%	<中学校> 90%		76%	<中学校> 84.7%	
目的を達成するための具体的な方策	01 基礎学力の向上	授業が分かると思う子どもの割合	<小学校> 87.4%	<小学校> 90%	27年度	—	<小学校> 87.4%	※01, 02, 04, 05については平成23年度が初年度調査  県教委朝食調査（幼・小・中全員を対象）における摂取割合
			<中学校> 82.5%	<中学校> 80%		—	<中学校> 75.6%	
	02 豊かな人間性・社会性の育成	近所や知り合いの人にあいさつをしている子どもの割合	<小学校> 86.6%	<小学校> 95%	27年度	—	<小学校> 88.0%	
			<中学校> 98.8%	<中学校> 95%		—	<中学校> 88.2%	
	03 健康な身体と基本的な生活習慣づくりの推進	朝食を摂取している子どもの割合	95.3%	100%	27年度	96.3%	91.0%	
	04 地域連携・地域交流の推進	地域の行事や活動に積極的に参加している子どもの割合	<小学校> 77.3%	<小学校> 80%	27年度	—	<小学校> 76.3%	
<中学校> 75.6%			<中学校> 70%	—		<中学校> 64.2%		
05 教育的支援体制の充実	教育的支援が必要な子どもに必要な支援の提供	適正処理	適正処理	27年度	—			

市民との協働方策		《平成24年度末時点の活動状況》	平成25年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 学校行事への積極的な参加	運動会、文化祭等学校行事への参加 授業参観、オープンスクールの実施 青少年育成会との連携	学校行事やPTA活動等において、保護者や地域の方に積極的に情報を発信し、協働して教育の充実を図る。

《実績評価》  
 (1) 基本計画指標の達成度  
 平成23年度の実績に基づき設定した目的値に向けて、期限までに計画的・継続的な取組を進め、達成度を上げていく。  
 基本計画管理指標の平成24年度末実績は、平成23年度末実績から上昇傾向にある。達成度が低下した項目については重点化した取組を実施し、向上させていく。

(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度

- ・校長会と連携し、策定した伊東市の教育の充実を図るプランの実践が軌道に乗りつつある。
- ・基礎学力の向上に向けた方策には、特に積極的かつ重点的な取組を実施し、確実に目的達成に繋げていきたい。
- ・「健やかな心と体の育成」「特別活動」「道徳教育」「かかわり合いの充実」等、目標に沿ったテーマについて市の研究指定校・園を指定し、研究を深めている。
- ・「伊東市保幼小連携プログラム」を策定し、保幼小の具体的な連携のあり方についての視点を定めた。今後、具体的な実践を通し充実を図りたい。
- ・通級指導教室の活用児童数の増加など、適切な指導を受けられる児童が増加した。平成25年度は支援員をさらに増員し、特別支援教育の体制を一層充実させていく。

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H24年度末)	目標	期限	《平成25年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01 基礎学力の向上							
0101	教職員の資質向上	市教育奨励賞応募者数	15人/年	15人/年	25年度	・教職員のコンプライアンス意識を高め、体罰を含めた不祥事を根絶し、児童生徒等の信頼感を高めていく。	
			〈小学校〉 87.9%	〈小学校〉 95%	27年度		
		信頼できる先生がいると答えた子どもの割合	〈中学校〉 82.5%	〈中学校〉 80%	27年度		
0102 指導主事の学校訪問			訪問等による指導	適正処理	適正処理		25年度
0103 教育研究の推進		教育研究の成果の発表・共有化	適正処理	適正処理	25年度		
0104	外国語活動の推進	外国人や外国人の文化に興味をもち、積極的に接している子どもの割合	〈小学校〉 62.8%	〈小学校〉 70%	27年度		
			〈中学校〉 67.5%	〈中学校〉 60%	27年度		
0105	読書好きな子どもの育成	1週間に1回以上読書している子どもの割合 (漫画・雑誌・教科書を除く)	〈小学校〉 71.6%	〈小学校〉 80%	27年度		
			〈中学校〉 59.8%	〈中学校〉 70%	27年度		
02 豊かな人間性・社会性の育成							
0201	あいさつの奨励	近所や知り合いの人にあいさつをしている子どもの割合	〈小学校〉 86.6%	〈小学校〉 95%	27年度	・道徳教育の一層の充実を図り、児童生徒の道徳性を高め、いじめのない学校づくりを進めていく。	
			〈中学校〉 98.8%	〈中学校〉 95%	27年度		
0202	道徳教育の充実	困っている人には手助けをすると答えた子どもの割合	〈小学校〉 87.6%	〈小学校〉 95%	27年度		
			〈中学校〉 82.5%	〈中学校〉 90%	27年度		
0203	環境教育の充実	環境を守ることの大切さを理解した行動をしている子どもの割合	〈小学校〉 84.1%	〈小学校〉 90%	27年度		
			〈中学校〉 76.8%	〈中学校〉 90%	27年度		

03 健康な身体と基本的な生活習慣づくりの推進						・昨年度に引き続き、朝食摂取の大切さを小中学校の全児童・生徒を対象にお便りを配布するなどの取組を進める。
0301	安定した生活習慣づくりの推進	朝食を摂取している子どもの割合	95.3%	100%	27年度	
0302	園児児童生徒の健康診断・各種検診の実施	診断結果による健康指導（市主催による個別相談会の開催）	生活習慣病予防個別相談会の開催	継続開催	27年度	
0303	体力・運動能力の向上	新体力テスト（8種目）結果が県平均以上である種目数	<小6> 男子:8種目/8種目 女子:8種目/8種目 <中3> 男子:2種目/8種目 女子:2種目/8種目	<小6> 8種目/8種目 <中3> 8種目/8種目	27年度 27年度	
04 地域連携・地域交流の推進						・「伊東市学校防災方針」を策定し、地域と学校との連携を一層深め、協力・協同で防災活動を進められるようにする。
0401	防災教育の実施	地域と学校との連携による防災訓練の実施	適正処理	適正処理	25年度	
0402	地域との積極的なかかわり	地域の行事や活動に積極的に参加している子どもの割合	<小学校> 77.3% <中学校> 75.6%	<小学校> 80% <中学校> 70%	27年度 27年度	
0403	学校評価及び学校評議員制度の活用	P T Aや地域住民の意見や評価の学校運営への反映	適正処理	適正処理	25年度	
0404	子供達の安全安心のための地域協力	地域住民のパトロール、パンダの家等	適正処理	適正処理	25年度	
05 教育的支援体制の充実						・小学校1年生については、学習指導の他きめ細やかな生活指導も必要である。スムーズな小学校生活を送るための支援を今後充実させていきたい。 ・特別支援学校、特別支援学級程度ではないが、通常学級の中で特別な支援が必要な児童生徒に対する支援を今後充実させていきたい。
0501	小学校低学年学級支援の充実	低学年のクラスが複数ある小学校への支援者の配置	2人	7人（複数クラス該当校）	27年度	
0502	特別支援教育支援の充実	支援員ひとり当たりが支援する通常学級在籍特別支援対象児童生徒数	16.5人	5人	27年度	
0503	適応指導教室の充実	通級により改善し高校進学及び就職に繋がった割合	100%	70%	27年度	
0504	教育相談室の充実	相談支援事業の周知	適正処理	適正処理	25年度	
0505	通級指導教室の充実	通級指導教室（ことばの教室）の通級により改善し退級した園児児童の割合	14.3%	60%	27年度	

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち
施策分野	4	生涯学習活動の推進

課（係）名	生涯学習課	
作成年度	平成25年度（更新日）	平成26年1月24日

目的	管理指標	実績 (H24年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H22年度末)	(H23年度末)	備考	
基本計画	市民が生涯を通じていつでもどこでも快適に学習できるまちを目指します。	市民1人当たりの生涯学習活動の参加回数	1.91回	2.59回	27年度	1.97回	1.91回	各施設の生涯学習した人間の合計を年度末人口で除した数値
		市民1人当たり図書貸出し冊数	3.05冊	4.50冊	27年度	2.81冊	3.10冊	
目的を達成するための具体的な方策	01 生涯学習機会の提供	中央会館・ひぐらし会館に登録している団体の数	705団体	780団体	27年度	588団体	653団体	
	02 市民の自主的生涯学習活動の推進	市民1人当たりの生涯学習活動の参加回数	1.91回	2.59回	27年度	1.97回	1.91回	
	03 図書館機能の充実	市民1人当たり図書貸出し冊数	3.05冊	4.50冊	27年度	2.81冊	3.10冊	

市民との協働方策		《平成24年度末時点の活動状況》	《平成25年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 自主的な生涯学習活動の広がり	平成24年度は中央会館外壁工事による約3か月の駐車場使用禁止のため図書館貸出冊数の減少があるものの、市民の生涯学習活動は引き続き活発であった。市民大学を八幡野コミュニティセンターで開催するなどの機会の提供や情報発信・提供に努め、市民の自主的な活動を一層促進した。	市民のニーズの多様化に対応した講座等を開催により、市民の自主的な活動を促進する。

《実績評価》	
(1) 基本計画指標の達成度	
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民大学、いでゆ大学等の事業展開により、広く市民に生涯学習機会を提供したことで、受講生による自主サークルの創設が図られ中央会館・ひぐらし会館に登録している団体の数は順調に増加している。</li> </ul>	
(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度	
<ul style="list-style-type: none"> <li>「まなびのとびら」を市民等に配布することにより、生涯学習機会の提供、活動の推進を図った。</li> <li>各施設利用者の利用希望日が重複する時は、他の施設を紹介し、調整に努めている。</li> <li>図書館においては、図書資料・情報収集の充実を図ったことにより図書等の貸出冊数を維持できた。今後も図書館の資料・情報の収集を積極的に取り組んでいく。</li> </ul>	



方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H24年度末)	目標	期限	《平成25年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01 生涯学習機会の提供							
	0101	学習施設貸出備品の整備	生涯学習センター貸出備品数	17品目	20品目	25年度	01生涯学習機会の提供 ・生涯に渡って、学習することはいつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような社会を築くことである。行政のみの働きだけではなく、市民による自主的な生涯学習活動の広がりがあって初めて達成する。このことから、引き続き市民の自主的活動の推進に寄与していく。
	0102	学習情報の収集・発信	学びのとびらによる活動状況を掲載する団体数	265団体	270団体	25年度	
	0103	生涯学習指導者登録数	市ホームページに公開している生涯学習指導者の登録数	111人	120人	25年度	
	0104	生涯学習団体の情報提供	広報いとう等で生涯学習団体の市民に情報提供した件数	20件	22件	25年度	
02 市民の自主的生涯学習活動の推進							
	0201	市民向け学習講座・教室の開催	市民大学・いでゆ大学延べ参加者数	1,904人	2,100人	25年度	03図書館機能の充実 ・ホームページから予約し、移動図書館において受取りを可能としたことによって、遠隔地市民の利便性を高める。 ・新一年生の利用者カード登録を学校に取りまとめ依頼することによって、移動図書館車の利用を促進する。
	0202	生涯学習団体への支援	生涯学習活動を積極的に行う団体数	238団体	250団体	25年度	
	0203	学習成果を活かした地域における学習交流の推進	3地域生涯学習センターと4コミュニティセンターでの自主的サークルの使用回数	6,086回	6,200回	25年度	
	0204	家庭教育に関する学習機会と内容の充実	明るい家庭づくり・豊かなまちづくりを目的に幼稚園・小学校で実施されている家庭教育学級の実施校数	7校	8校	25年度	
03 図書館機能の充実							
	0301	図書資料の充実	図書館蔵書冊数	180,380冊	182,000冊	25年度	03図書館機能の充実 ・ホームページから予約し、移動図書館において受取りを可能としたことによって、遠隔地市民の利便性を高める。 ・新一年生の利用者カード登録を学校に取りまとめ依頼することによって、移動図書館車の利用を促進する。
	0302	図書貸出冊数	図書貸出冊数	220,801冊	225,000冊	25年度	
	0303	インターネットによる図書情報の発信	インターネット検索回数	304,155回	310,000回	25年度	
	0304	移動図書館車の巡回	移動図書館車の貸出冊数	25,427冊	27,000冊	25年度	

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち	課（係）名	生涯学習課
施策分野	5	市民スポーツ活動の支援	作成年度	平成25年度（更新日） 平成26年1月23日

目的	管理指標	実績 (H24年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移				
					(H22年度末)	(H23年度末)	備考		
基本計画	市民が気軽に快適にスポーツができるまちを目指します。	スポーツ施設の利用状況	327,578人	330,000人	27年度	315,251人	315,966人	スポーツ施設…社会体育施設、学校施設	
目的を達成するための具体的な方策	01	スポーツ指導者の養成	指導者数	84人	110人	27年度	104人	92人	指導者数…スポーツ推進委員、スポーツ少年団指導者の合計
	02	スポーツ大会の実施	回数、参加人数	6回 10,539人	6回 11,110人	25年度	6回 11,073人	6回 10,976人	按針祭協賛スポーツ祭、伊東市スポーツ祭、陸上カーニバル、オリンピックマラソン、伊東駅伝、地域体育振興会スポーツ大会
	03	体育施設の整備	既存施設改修計画に基づく改修率	計画策定中	計画に基づく施設改修率	27年度	—	—	老朽化施設の改修、総合体育館の新設・建替、400mトラックとフィールドを備えた総合運動場の整備、県営施設等の誘致

市民との協働方策	《平成24年度末時点の活動状況》		《平成25年度の改善のポイントや重点方向等》	
	01	スポーツ活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進委員による各種健康教室等の講師としての活動</li> <li>・スポーツ少年団活動</li> <li>・各大会運営への地域体育振興会、市民、高校生ボランティアの参加</li> <li>・地域体育振興会主催の地域体育大会の開催</li> <li>・伊東市振興公社主催のウェルネス教室等スポーツ教室の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マラソン、駅伝大会の規模の拡大は、会場、交通規制等の関係で難しいため、昨年の大会の反省から内容の充実、円滑な運営を図る。</li> <li>・各種スポーツ大会の周知に努める。</li> <li>・スポーツ大会への高校生、中学生等の参加拡大を図る。</li> <li>・しずおかスポーツフェスティバルへ参加する。</li> <li>・市町対抗駅伝の参加を市民へ周知し、スポーツの関心を高めるとともに、選手候補者として幅広く募集し選手の強化を図る。</li> </ul>

《実績評価》
(1) 基本計画指標の達成度
・目標には及ばなかったものの一定の実績は得られた。近年の健康志向の高まりから、スポーツに対する関心も高まっており、更なる生涯スポーツ人口の拡大に努めている。

(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度

【01スポーツ指導者の養成】スポーツ推進委員、スポーツ少年団指導者等に指導者研修等を斡旋した。  
 【02スポーツ大会の実施】各種競技スポーツ大会の実施については、体育協会等関係団体と連携し実施した。  
 【03体育施設の整備】既存施設整備は、振興公社と協議して修繕等を積極的に実施し、快適な利用を推進した。また、施設の老朽化やスポーツ関係団体等から要望のある、施設新設・建替等に向けての調査・研究については、具体的に進まなかった。

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H24年度 末)	目標	期限	《平成25年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01		スポーツ指導者の養成					01スポーツ指導者の養成 ・スポーツ推進委員は、就労者であるため、委員としての活動と就労とが支障ないよう配慮し支援する。 ・少子化の中であるが、スポーツ少年団の活動をPRするなどして団員確保等支援していきたい。 ・スポーツ推進委員やスポーツ少年団指導者は、専門的、技術的指導や助言を行うことから県やスポーツ団体が行う指導者研修会への参加促進に努める。
	0101	スポーツ推進委員の養成	スポーツ推進委員数	14人	18人	27年度	
	0102	スポーツ少年団指導者の養成	スポーツ少年団指導者数	70人	90人	27年度	
	0103	スポーツ指導者研修会への参加促進	研修会参加者数	28人	60人	27年度	
02		スポーツ大会の実施					02スポーツ大会の実施 ・各スポーツ大会等について、会場確保が競合しないよう、適切に調整していく。 ・陸上カーニバルについては、更なる参加者の増員を図るため、学校等に対し働き掛けをする。 ・オレンジビーチマラソンについては、会場、交通規制等の関係で規模の拡大は難しいため、内容の充実や円滑な運営に努めたい。 ・伊東駅伝については、交通規制の面から厳しい指摘を受けているため、コース変更等運営の改善を図りたい。 ・地域スポーツの主体となる、体育振興会の設立を地域に働き掛ける。 ・スポーツ活動の受け皿として、地域スポーツクラブの設立に努める。
	0201	按針祭協賛スポーツ祭	参加者数	4,008人	4,200人	25年度	
	0202	伊東市スポーツ祭	参加者数	3,025人	3,200人	25年度	
	0203	陸上カーニバル	参加者数	556人	600人	25年度	
	0204	オレンジビーチマラソン	参加者数	2,509人	2,620人	25年度	
	0205	伊東駅伝	参加者数	406人	450人	25年度	
	0206	地域体育振興会スポーツ大会	参加者数	35人	50人	25年度	
	0207	地域スポーツクラブの育成	クラブ数	2団体	3団体	25年度	
03		体育施設の整備					03体育施設の整備 ・体育施設整備については、(財)伊東市振興公社等と連絡を密にし、適正な維持管理、修繕に努める。 ・市民体育センターは、施設の耐震診断を実施するため、診断後には施設の改修・修繕計画の策定に努める。 ・総合体育館等施設建設のため、スポーツ施設建設基金の設置をしたい。
	0301	既存施設の修繕、改修	既存施設改修計画に基づく改修率	計画策定中	計画に基づく施設改修率	27年度	
	0302	総合体育館の建設に向けた調査・研究	総合体育館の建設に向けた調査・研究回数	0回	建設費用・候補地の調査・研究3回	27年度	

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち	課（係）名	生涯学習課		
施策分野	6	歴史・芸術文化の振興	作成年度	平成25年度	(更新日)	平成26年1月24日

目的	管理指標	実績 (H24年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H22年度末)	(H23年度末)	備考	
基本計画	市民が気軽に歴史、芸術文化に触れることができるまちを目指します。	歴史文化に触れた人数	11,375人	15,850人	27年度	11,278人	12,699人	李太郎記念館、文化財管理センター、体験講座、市史講座、講演会の入館数・参加数
		芸術文化に触れた人数 ・(芸術祭への出演・出品人数) ・(芸術祭の観客人数)	2,000人 10,624人	2,200人 12,000人	27年度	1,910人 11,304人	2,083人 11,729人	24年度実績が基本計画の目標値を上回ったため、新たな目標値を設定
目的を達成するための具体的な方策	01 歴史、芸術文化に触れる機会の創出	市内文化施設及び市芸術祭の入場者等	23,810人	30,050人	27年度	24,636人	26,511人	
		文化イベントの誘致件数	0件	2件	27年度	0件	1件	
	02 歴史文化情報の発信	講演会等の参加人数	189人	850人	27年度	165人	400人	
		文化財保護啓発イベントの実施件数	1件	2件	27年度	0件	1件	
		インターネットによる文化情報のアクセス数	1,947回	4,000回	27年度	3,196回	2,560回	
	03 芸術文化活動の支援	伊豆美術祭・後継者育成・文化イベントへの支援件数	55件	65件	27年度	49件	40件	

市民との協働方策	《平成24年度末時点の活動状況》		《平成25年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 文化や文化財を愛護する市民や市民団体との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもを中心とした伝統文化育成事業への補助制度を推進</li> <li>芸術文化にふれ、直接参加する機会を高めることを目的に芸術祭を開催</li> <li>市民文化の振興のため、文化協会と連携をとっている。</li> <li>地域の文化財を愛護する団体と連携し、保護に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化協会をはじめとする文化団体との協業で、市民文化の向上に努める。</li> <li>文化財愛護団体と連携し、広報を充実させていく。</li> </ul>

《実績評価》
(1) 基本計画指標の達成度
・前年度に比べ、全体的に数値実績が低下している。イベント内容や広報手段等の見直しの必要がある。
(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度
【01歴史、芸術文化に触れる機会の創出】芸術文化活動を担う世代の高齢化が進んでおり、活動が低迷傾向にある。
【02歴史文化情報の発信】情報発信の手段や内容の見直しが必要である。
【03歴史、芸術文化に触れる機会の創出】伝統文化を次世代に伝える事業を実施する団体を積極的に支援し、市民が文化に触れる機会を創出した。

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H24年度末)	目標	期限	《平成25年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01 歴史、芸術文化に触れる機会の創出							
	0101	市内文化施設の入場者数	木下奎太郎記念館、文化財管理センター入館者数、観光会館文化事業入場者数	11,186人	13,000人	25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>伊豆美術祭は2年毎の開催で、平成24年度は未開催であった。</li> <li>拓本コンクールは2か年1事業で、平成24年度は募集年にあたり、出品はなかったが、採拓申込者数は96人で前回より増加している。</li> <li>市民に地域の歴史・文化に興味を持ってもらうため、出前授業や講座を積極的に行っていく。</li> <li>芸術祭においては、参加者の自主に関わる部分を増やしていくことで、民間主体の運営を目指していく。また、参加者による広報活動を進め、来場者増加を図る。</li> <li>地域の文化財看板の点検など、愛護する団体と連携しながら、広報を充実させていく。</li> <li>インターネットHPを充実させていく。</li> </ul>
	0102	市芸術祭の開催	出品者数、参加者数、観客数	12,624人	13,000人	25年度	
	0103	演奏会、展示会等の文化イベントの誘致	誘致件数	0件	1件	25年度	
	0104	文化に触れる事業の開催	拓本コンクール出品者数	-	60点	25年度	
	0105	文化財等に関する講座・教室の開催	参加者数	39人	60人	25年度	
02 歴史文化情報の発信							
	0201	伊東市史編さん資料の公開	講座、講演会参加者数	150人	200人	25年度	
	0202	文化財保護啓発イベントの実施	イベント件数	1件	2件	25年度	
	0203	インターネットによる文化情報の発信	アクセス数	1,947回	2,500回	25年度	
03 芸術文化活動の支援							
	0301	伊豆美術祭への支援	出品者数、入場者数	-	550点、2,000人	25年度	
	0302	文化育成への支援	伝統文化子ども育成支援数	4件	5件	25年度	
	0303	文化イベントへの支援	後援件数	41件	50件	25年度	
	0304	文化協会加盟団体に対する支援	後援件数	14件	20件	25年度	

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち
施策分野	7	国際交流の推進

課（係）名	市長公室課		
作成年度	平成25年度	（更新日）	平成26年1月23日

目的	管理指標	実績 (H24年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H22年度末)	(H23年度末)	備考	
基本計画	身近な所で異文化交流が楽しめるまちを目指します。	国際交流に関する体験や行事に参加した市民の割合	9.1%	18.5%	27年度	13.5% (H21年度)	—	平成24年10月に実施した市民満足度調査の結果
目的を達成するための具体的な方策	01 国際交流事業の推進	国際交流イベント参加者数	1,600人	1,700人	27年度	1,500人	1,500人	
	02 外国人住民の日常生活環境の支援	日本語教室受講者数	805人	800人	27年度	670人	672人	
	03 国際理解の啓発	国際交流関係講座数	4講座	6講座	27年度	4講座	3講座	

市民との協働方策	《平成24年度末時点の活動状況》		《平成25年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 市民参加による国際交流イベントの実施	イギリス・メドウェイ市との友好都市締結30年を記念し、市民参加によるヨーロッパ訪問団を結成、メドウェイ市のほかに同じく友好都市であるイタリア・リエティ市も訪れ、交流を深めることができた。	国際交流フェスタへの参加市民を増やし、国際交流への関心を深めてもらう。

《実績評価》			
(1) 基本計画指標の達成度			
・平成24年度は日本語教室受講者数が前年度の約1.2倍増、小中学校への友好都市紹介が前年度の約2.7倍増である等、市内に住む外国人や青少年の「異文化理解」に、より関わることができた。			
(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度			
・市内で行われる最大の国際交流イベントである国際交流フェスタは、参加者が年々増加しているが、他のイベントは横ばいで推移している。			
[参加者数] フェス + 他イベント = 国際交流イベント参加者			
	H21	1,000人 + 200人	=1,200人
	H22	1,300人 + 200人	=1,500人
	H23	1,300人 + 200人	=1,500人
	H24	1,400人 + 200人	=1,600人

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 （H24年度末）	目標	期限	《平成25年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01 国際交流事業の推進							
0101		国際友好都市（イギリス・トウェイン市、イタリア・リエティ市）との交流	交流回数	6回	6回	27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際交流フェスタへの参加市民を増やし、国際交流への関心を深めてもらう。</li> <li>他のイベントの参加市民を増やす方を試みる。</li> </ul>
0102		国際交流協会の活動の促進	国際交流協会会員数	390人、39団体	400人、45団体	27年度	
0103		国際交流フェスタの開催	入場者数	1,400人	1,500人	27年度	
02 外国人住民の日常生活環境の支援							
0201		外国人市民相談の充実	相談件数	6件	5件	27年度	
0202		日本語教室の周知と充実	受講者延べ人数	延べ805人	延べ800人	27年度	
0203		C A T Vによる外国人市民向け情報の英語放送	放送回数	毎日5回	前年度実績の維持	25年度	
0204		伊東市ホームページの外国語翻訳	翻訳言語数	4言語	前年度実績の維持	25年度	
03 国際理解の啓発							
0301		外国語教室の開催	開設講座数	2講座	4講座	27年度	
0302		小中学校へ国際友好都市紹介講座の派遣	派遣回数	8回	4回	27年度	
0303		異文化理解講座の開催	開催講座数	2講座	前年度実績の維持	25年度	

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち
施策分野	8	青少年の健全な育成

課（係）名	生涯学習課		
作成年度	平成25年度	（更新日）	平成26年1月24日

目的	管理指標	実績 (H24年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H22年度末)	(H23年度末)	備考	
基本計画	青少年が豊かな人間性、社会性を身につけ、健やかに育つまちを目指します。	あいさつ運動賛同者数	16,043人	17,100人	27年度	14,758人	15,306人	
目的を達成するための具体的な方策	01 声かけ・あいさつ運動の推進	あいさつ運動賛同者数	16,043人	17,100人	27年度	14,758人	15,036人	
	02 非行防止体制の強化	青少年補導の参加率	58.39%	80.00%	27年度	58.98%	74.60%	
	03 青少年健全育成活動の活発化	小学生ふるさと教室の参加延べ人数	399人	500人	27年度	221人	320人	
	04 次世代を担うリーダーの育成	夢チャレンジくらぶの参加延べ人数	28人	150人	27年度	83人	—	23年度は東日本大震災による事業見直しにより中止をした

市民との協働方策		《平成24年度末時点の活動状況》	《平成25年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 地域の青少年声かけ活動の推進	あいさつ運動は、7月と11月に全市であいさつ一斉活動を実施するなど、学校や市民への浸透も進んでいるおり、賛同者・団体ともに順調に増加している。	青少年の健全育成には、地域の大人の意識を高めることが重要であるということを理解してもらうため、声かけ・あいさつ運動の活動に対する一層の推進を図る必要がある。

《実績評価》	
(1) 基本計画指標の達成度	・平成24年度も7月と11月に全市であいさつ一斉活動を実施し、学校や各団体、事業所等と連携を図り、青少年の育成を見守るとともに、青少年の問題は地域の大人の問題であるとの意識を高めた。
(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度	・夢チャレンジくらぶは平成23年度を中止としたこともあり、参加者が少なかったことから次年度は早めの募集等を行い、次世代を担うリーダー育成に努めていく。



方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 （H24年度末）	目標	期限	《平成25年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01 声かけ・あいさつ運動の推進							
	0101	地域におけるあいさつ運動の推進	自治会等の地域団体の賛同数	64団体	70団体	25年度	<p>・地域社会での人間関係の希薄化、家庭や地域の教育力の低下などから青少年の様々な課題や問題が生じている。</p> <p>このような状況を改善するには子供の問題は大人の問題であるという意識を高め、地域の力を向上させることで問題の解決となることから、地域住民一人一人が地域への所属感をもちより良い人間関係を構築する。この活動として地域における声かけ・あいさつ運動や非行防止を積極的に推進し、地域づくり、家庭づくりにつなげる。</p>
	0102	小・中学校におけるあいさつ運動推進	小・中学校でのあいさつ運動の実施回数	717回	750回	25年度	
	0103	あいさつ運動の広報	あいさつ瓦版・広報掲載回数	6回	8回	25年度	
	0104	あいさつ運動の啓発	あいさつ標語コンクールの提出数	4,785作品	5,000作品	25年度	
02 非行防止体制の強化							
	0201	青少年補導センターの開設による子どもたちの見守り	青少年補導への参加者数	473人	500人	25年度	
	0202	地域との連携強化	青色回転灯車両登録台数	27台	30台	25年度	
	0203	警察と連携した触法事件への対応	青少年触法事件	42件	適正処理	25年度	
	0204	有害環境浄化対策の推進	指導施設数	2施設	0施設	25年度	
03 地区青少年健全育成活動の活発化							
	0301	地域における人づくりと人材活用	学年の異なる小学生が家庭から離れ共同生活をし自立心と互いに助け合う心を育む通学合宿の設置学区数	5学区	6学区	25年度	
	0302	青少年育成活動の実施	放課後子ども教室の数	5教室	6教室	25年度	
	0303	青少年教育の推進	善行賞の表彰者数	53人	60人	25年度	
	0304	地域活動団体の推進	地域子ども会の会員数	1,746人	1,800人	25年度	
	0305	青少年育成市民会議の推進	地域ぐるみの青少年健全育成活動の参加者総数	500人	600人	25年度	
04 次世代を担うリーダーの育成							
	0401	リーダー育成機会の拡大	夢チャレンジクラブの参加者数	7人	15人	25年度	
	0402	少年教育の推進	小学生ふるさと教室の参加者数	42人	50人	25年度	
	0403	年少者を指導する中高生の育成	静岡県初級・中級青少年指導者認定者数	6人	12人	25年度	
	0404	地域活動団体の支援	ボーイスカウト伊東地区・ガールスカウト49・92団の活動回数の計	集計中	100回	25年度	